

---

# 戦え！メタボーマン

sibugaki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

戦え！メタボーマン

### 【Nコード】

N93240

### 【作者名】

sibugaki

### 【あらすじ】

彼の名は「腹我太」名前の通りデブだ

しかし彼にはもう一つの姿がある

それは正義の味方「メタボーマン」なのだ

(前書き)

試作型なので短編です

彼の名は「腹我 太」（はらが ふとし）名前で分かんと思うが彼はデブだ

体重は140kg、体はデブデブボディと正にと言って良い程のデブである

世間では彼のように人間をこう呼ぶ

「メタボリックシンドローム」と

成人病に掛かり易い傾向だとかそう言われているっぽいが、要するにデブなのだ

だが、彼には人には言えない隠し事があった

3

・・・それは

「うわあああああああ！怪人だあああああああああ！

町行く1人の青年が叫んだ

目の前には巨大な鎌を持ったこれまたカマキリのような怪人が暴れていた

その周りには全身黒タイツの戦闘員が居た

「ゲギャギャギャ！貴様等人間共の服を引き裂いて髪を丸坊主にしてやるう」

何ともへんちくりんな事を呟く怪人  
それを見た太がハツとする

「これはまずい！すぐに变身しないと」

そう言うと太は誰も居ない路地裏に行く  
其処で太は懐からウル○ラセ○ンが变身で使うゴーグルっぽい物を取り出す  
そしてそれを掛けて叫ぶ

「变身！メタボーマン！！！」

\*\*\*

その頃、町ではカマキリ怪人が町の人達の髪を狩っていた

「ゲギャギャギャ！この髪で首領のカツラを作って差し上げれば俺様の人気も鰻のぼりよお」

どうやら髪を狩る目的はカツラ製作のようであった  
その時

「待てい！」

突如声が響いた

それはビルの上であった

其処には1人の男が立っていた

青い戦闘服を身に纏い赤いグローブとブーツ、そしてマントを羽織り  
胸には大きく「メ」と書かれており顔にはゴーグルと水泳帽みたい  
な帽子を被っていた

そして、腹は戦闘服で隠し切れないせいかぼっこりと出ていた

「誰だ！貴様は！」

カマキリ怪人はとりあえず聞く事にした  
すると男は応える

「正義の味方！その名も「メタボーマン」」

カツコよくポーズを決める

だが、姿がデブのせいかいまいち決まらない

それどころか町行く人々が非常に残念そうな顔になる

「ゲギャギャギャ！何がメタボーマンだ！要するに只のデブじゃね  
えか！やつちまえ！」

怪人が命令すると戦闘員が一齐に向かっていく

メタボーマンは「とお」と掛け声を上げてビルから飛び降りる

そして戦闘員達に向かつて

「メタボーフライングボディアタック！」

と技名を叫んで浴びせる

まあ言ってしまうえば要するに腹から落ちて戦闘員を潰したただけなの  
だが

そのせいで戦闘員は全滅した  
残るはカマキリ怪人だけである

「お・・・おのれえ！こうなれば死ねえ！メタボーマン」

カマキリ怪人がメタボーマンに向かつて鎌を振り下ろす  
だが、それをメタボーマンは片手でへし折ってしまった  
そして

「メタボーパンチ！！！」

メタボーマンの放った渾身のパンチがカマキリ怪人を吹き飛ばす  
そのままカマキリ怪人は星になり夜空に輝く一つの星座となったの  
であった

「これでまた町が救われた！さらば」

そう言い残してメタボーマンは飛び去った  
しかし、町の人達に歓声は起こらなかった  
だってメタボなんだもん・・・ヒーローが

\*\*\*

そしてまたメタボーマンが大地に着地すると変身が解けた  
だが、其処に居たのは先ほどまでのデブデブボディの太では無く、  
何とハンサムボディの太になっていたのであった

「はあく、疲れた・・・早く帰って寝たいよ」

太は肩をグルグル回して呟いていた

『弱気な事を言うな太！お前は地球の平和を守ると言う使命がある  
んだぞ』

「分かってるよ、メタボリック星人」

太の腕に装着されていた腕輪が喋った

彼の名は「メタボリック星人」地球から滅茶苦茶離れた星、「メタ  
ボリック星」から来た宇宙人らしい

偶々地球を観光していたら間違えてこの男、腹我太を跳ね飛ばして  
しまったのでその罪滅ぼしにと彼に新たな命と「メタボーマン」  
と呼ばれる力を授けたのだ

だが、このメタボーマンは変身と戦闘に多大な量のカロリーを必要  
としてしまうので、必然的に戦闘が終わると太はハンサムボディに  
なるのだ

因みに今の体重は65kgである

『早く帰ってカロリーを補給するんだ！』



「やだよ！折角痩せたのにまた太るなんて御免だね」

メタボリック星人の忠告を無視する太

『何言つてんだ！メタボーマンはカロリーを消費して戦うんだぞ！  
カロリーが無いとメタボーマンは実力を100%出せないんだぞ！』  
「その時はその時さ」

そう呟いていた  
すると

「うわああああああああああああああああああ！怪人だあああ  
あああああああああああああああ」

これまた何処かの町の人が叫んだ

「いけない！また変身しなきゃ」

『おい、変身前にカロリーを摂取しろ！』

「そんな暇無いよ！変身！メタボーマン！……！」

ハンサムボディのまま太が変身する

\*\*\*

一方、こちらではバツタの怪人が立っていた

「グハハハハ！この町を破壊してその上に緑の木を植えるのだ！」

そう言ってビルを破壊して残骸を撤去するとその何も無い更地に戦闘員が木を植えた

どうやら自然環境を再生しようとしているらしい  
すると其処へ

「待てい！」

とやってきたのは青いムキムキボディの戦闘服に赤いグローブとブーツ、そしてマントを羽織っており

ゴーグルと水泳帽を被ったナイスなスタイルのヒーローであり胸には大きく「ハ」と書かれていた

「誰だ貴様」

怪人が男に問う

すると男は応えた

「正義の味方「ハンサムマン」」

カッコよくポーズを決める

すると辺りから大歓声が響く

やっぱりヒーローはハンサムじゃないと人気でないらしい

「何？ハンサムマンだと？カマキリ怪人を倒したのはメタボーマン

と聞いたが、まあ良い！貴様を叩きのめしてやる」  
「行くぞ！」

ハンサムマンはバツタの怪人に向かっていく  
そして腕を振り上げて

「ハンサムパンチ」

と言ってハンサムマンの拳がバツタの怪人に当たる

ペトッ

だが、威力は全く無い

「へ？」

それにバツタの怪人が驚く

「ハッ、ハッ、ハッ、ハッ…」

その間もハンサムマンのハンサムパンチが繰り返される  
が、相変わらず

ペトッ、ペトッ、ペトッ、ペトッ

と、威力は全くない

それに流石にうざったらしいと思ったバツタの怪人が

「うぜえー！」



そして、其処は・・・なんと「食料庫」であった  
それを見たハンサムマンのお腹が「グ〜」と鳴ったのであった

\*\*\*

「さ、さあ、とりあえず破壊しまくれ」

ハンサムマンをやっつけたので早速作業に戻る事にした  
が、

「待てい！」

其処へまた声が響く

またかよ、と言いたげな顔でバツタの怪人が声のした方を見た  
其処には最初の時のようにメタボなヒーローが居た

「正義の味方「メタボーマン」」

「え？お前がメタボーマン？あんなメタボな奴に負けたの？カマキ  
リ・・・」

流石に信じられなかったが、とりあえず向かってくる火の粉は払わ  
ないといけないので早速戦闘員を向かわせた



彼の名は腹我太（20）

彼は人知れず今日も戦うのだ  
日々カロリーを摂り力を蓄えて迫り来る悪の怪人に敢然と挑む正義  
の使者

人は彼をこう呼ぶ

「メタボーマン」と

「戦いが終わったら・・・ダイエットしよう」

そう心の中で呟く太であった

(後書き)

どうもです、面白ければ感想下さい  
反応いかんでは連載も考えておりますので  
ではでは



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9324o/>

---

戦え！メタボーマン

2010年11月15日12時17分発行